

日本人の物の考え方 —日本人の常識は世界の非常識

坂下 正憲 (ANA総合研究所客員研究員)

目 次

はじめに	53
1. 世界に稀な民族	53
2. すぐに信用してしまう日本人スタンダード	54
3. 現金も信用してはいけない	55
おわりに	56

はじめに

よく日本人はお人好しで単純で騙されやすいと言われる。これはもちろん海外の他の国々と比べての話であるが、米国、香港、欧州と16年にわたる海外生活を通して、確かに彼らは日本人に比べ、物事を合理的に考え、相手のことを考えるより自分を優先し、和を保つより、自己主張がしっかりしている傾向がある。

日本人は一般的に小さい頃から「人に迷惑を掛けてはいけない」と教えられている。そして和を乱さないように育てられ、自分より相手のことを考える習慣がつき、自己主張が下手ということになる。そして相手も同じように思っていると考え、思いも及ばぬ事態に直面するのである。

1. 世界に稀な民族

お人好しはおもてなしにも通じるが、自己主張は控え、自分より相手を立て喜んでもらえれば幸せと考える。なぜ日本人はお人好しになったのか? 一つには他の民族に占領されたことがない国であり、独特的な文化、考え方が定着してきたのではないかと考える。長年、同じ文化や歴

史を共有し、同じ価値観を持ち、言葉にしなくてもわかつてもらえる、相手も自分と同じように考えていると思いがちだ。

日本では謙讓は美德とされる。読んで字のごとくへりくだつて譲ることであるが、自らを低め相手を高めることで喜んでいる民族は日本人ぐらいなものである。海外では人に譲ろうとなんて考えていない。それより自分が勝ち取ったものを必死で守ろうとする。

香港に駐在していた時に手軽な交通手段としてミニバスをよく利用していたが、現地の乗客は

写真1 香港のミニバス



たいてい出入口に近い通路側から座る。そして次に乗車してきた客が来ると窓側に詰めないで、座ったまま体を捩って奥に入れさせる。「そうかこの人は次に降りるのだな」と思っていると後か

ら乗って来た人が先に降りる。そうすると、先客はまた身を捩ってその人を通過させる。なんて思いやりのないことをするのだと思つてゐるとみんな同じことをしている。それでわかったのは通路側の座席は自分が獲得した権利で、それを人に譲るなんて発想は彼らないのである。何を大げさなと思われるかもしれないが、一度香港の地下鉄に乗つてみられればよい。大半の乗客がドアの所にひしめき合つて出口の近くの位置を死守している。車両の真ん中はガラガラなのにドアの付近だけが異常に混んでいる様子には笑つてしまつた。

これが日本ならどうだろか。バスに乗つても次の客が来れば自分は窓側に詰めるか、あるいは次の人のためにはながら通路側を空けている。電車に乗つても次に乗つてくる人の為に自然と奥に詰めている。東日本大地震の時に整然と並んで救援物資を受け取つてゐる様子に世界中から称賛の声が寄せられたことは記憶に新しい。日本人には当たり前のことであるが、これが海外ならわれ先にとトラックに乗り込んで物資を奪い合うことになるのだろうか。日本では奪い合うこともなく、仲良く分け合つてゐる。何が違うのか。

「衣食足りて礼節を知る」とはよく言われるところであるが、概して日本人は高度な教育を受け、豊かな生活を送つてゐる。1970年代に1億総中流という言葉が流行つたことがあるが、日本の社会においては極端に裕福な人や貧しい人が少なく、格差が小さいのである。無理して人を押しのけなくとも、普通に健康で文化的な生活を営むことができる、平和で治安が良い社会が形成されたのである。こうしてお人好しで単純な性格が醸成されていったのではないだろうか？

2. すぐに信用してしまう日本人スタンダード

騙されやすいという点では、他人を簡単に信用してしまうと言い換えた方が良いかもしれない。日本社会においては「人を見たら泥棒と思え」と

も言われているが、「嘘つきは泥棒の始まり」の教えの方が浸透している。正直に目立つことなく、奥ゆかしく生きることが良いとされている。香港に駐在している時に親しくなつた現地の友人が「香港では小さい頃から『人を信用するな』と教えられている」と教えてくれた。中国も含めて香港人は人を騙すことは悪いことだが、騙される方も悪いと考えているのだそうだ。

一度、香港随一の繁華街「銅鑼湾」のそごう百貨店でソニーのラジカセを買ったことがあるが、驚いたことに店員は化粧箱を開けてきれいにラップされた新品を取り出してきて、無造作にラップを剥してラジカセを取り出し、電池を装てんして、試聴するように言ったのである。そして「聞こえるか？」と聞くので「聞こえる」と言うそのまま元の箱に戻して、そのまま手渡しされたのである。折角、新品で購入したのに包装を無茶苦茶にしてどうしてくれるので怒りを覚えた。最初はわけがわからなかつたが、購入した製品が不良品でなく、正常な状態で提供したということを店側としては示したかったということのようであった。

いくら香港とはいえ、日系の百貨店で新品の日本の電化製品を購入したのだから不良品であるわけではなく、たとえ壊れても百貨店に持つてくれば交換してもらえるのだから、そんなことをまでしなくとも普通の日本人は考える。しかし、人を信用しない香港人の立場から考えるとどうだろうか？ 購入した客が家に帰り、不良品と取り換えて、新品との交換を要求してくることや、いかにソニーと言えど箱に入っているものが本物かどうか保証はない。実際、(中国の)工場から出た不良品が横流しされて堂々と化粧箱に入れられて売買されるケースは枚挙に暇がない。さらに言えば、本当に不良品が入っているケースも絶対にないとは言えない。そこまで考えるとあの店員の行動も理解できるような気がする。店側は消費者を信用していないし、消費者は店を信用していないのである。

似たような経験はドイツでもあった。フランクフルトに赴任して入居した家の階段の踊り場の電球が切れたので、近くのメディアマルクト（大型家電販売店）に行って同じ電球を購入して、家に帰つてつけると点灯しない。翌日、レシートと電球を持ってメディアマルクトへ行くと「あなたはこれを買う前に点灯することを確認したか？」と聞く。私は若干の謝罪と新品の交換を期待していたので驚いて、「そんなことはしていない」と言うと、店員は電球売場に私を連れて行って電球が一杯乗っているワゴンの上方を指差した。そこには横一列に様々な種類のソケット（電球の差込口）が並んでいた。「えっ？ これでテストして買うの？」。

これも日本で暮らしていると考えつかない。何しろ段ボールみたいな緩衝材で包装されている新品なのである。それをいちいち取り出して、そのソケットに差し込んでチェックする必要があるのか。あるのである。製品品質において日本と競うドイツでもこうである。

不良品が出現する確率は少ないかもしれないが、店を信用しないで自分で買うものは自分で確認するということがドイツスタンダードなのである。やっと理解した私に苦笑を浮かべながら、今回は特別だと言って新品と交換してくれた。謝罪を期待していた私は購入方法を知らなかったことを詫びて、交換してくれたことに感謝してその店を去ったのである。

3. 現金も信用してはいけない

何事にしてもあまり相手を疑わず、簡単に信用してしまう傾向にある日本人ではあるが、海外においては通用しないし、痛い目に会うことの方が多い。日本の旅行ガイドブックにも載っている香港の人気アヒル料理店があるが、そこにはコース料理の日本語メニューがあった。日本人が入店するとそのメニューが出されて注文するわけだが、その代金はコース料理を別々にアラカルトでオーダーするより高かった。日本人ならセットになって

いる方が安いはずと思い込んでいるので喜んで支払っている。この事実を教えてくれたのは部下の香港人だったが、日本人は気の毒だと言っていた。

お金にしてもそうだ。アメリカ人はレストランなどで支払いの時、明細書を一つずつ、時間をかけて慎重にチェックする。日本人にはそういう習慣はない。そんなことをすると相手を信用していないと思われるのではないかと考えてしまう。間違って請求してくるとは想像もしないのである。よって確認もしないで払ってしまう。言われるがままに支払ってしまう。

これが日本国内であればそれほど問題はないが、海外ではそうはいかない。実に間違いが多いのである。実際に間違うこともあるが、故意に間違えていることも多々ある。おつりもわざとごまかされた経験も何度もあった。よく海外の人は計算が苦手でよく間違えるなどと言われるが、とんでもない。実に計算高いのである。帰国してゴルフ場などでカード払いする時に、フロントで係員は明細も見せずに金額だけを言ってカードを受け取ろうとするが、いつも違和感を持つてしまう。同じことをアメリカ人すれば、びっくりされるか拒否されると思う。(回転しない) 寿司屋などでアメリカ人は納得して料金を払っているのかと想像してしまう。

多分、日本人は一番現金を有難がっている国民ではないかと私は思っている。私もアリゾナ大学に留学するまで現金が一番だと思っていた。ところがアリゾナで生活を始めてみて、現金より小切手 (personal check) が信用され重用されていることに気がついた。現金は贋金を擲まされる危険があるし、持っていると奪われる可能性だってある。強盗が狙っているのは現金であって、受取人以外には何の価値もない小切手には見向きもしない。よって安全なのである。お店にしても現金より小切手のほうが狙われない分、安全で有難いのである。実際に使って見れば小切手は本当に便利にできていて、いつ、いくら誰に払ったのか記録が残るし、紛失しても実害がないの

で郵送だってできる。このシステムが考え出された背景には、貴金や強盗が常態化していて、それから身を守る必要があったのではないかと思う次第である。

香港人はたいてい高価な貴金属を身につけていますが、よく聞いてみると強盗に遭った際に貴金属を差し出して命を助けてもらうとのことであった。もともと香港人の貴金属好きは暗い歴史に根差している。イギリスの植民地時代、日本軍に占領されていた時代、戦後の中国共産党と国民党の内戦時代、文化大革命や天安門事件の大混乱時代を経験してきた香港人は政府や自国通貨を信用していないのでお金を持てばどんどん金に交換する。そして街に銀行ならぬ金行が蔓延することになるのである。

日本では、今使っている紙幣が一晩にして紙くずになってしまふとか思いつかない。実際に偽札を見た人もほとんどいなうし、ホールドアップにあつた人もまれである。街で落とした財布が、そのまま交番に届けられ手元に戻ってくるような国である。

国家を信頼しているというより疑つたことなど一度もない。そういう民族なのである。

おわりに

お人好しで単純で騙されやすいと最初に言ったが、言い換えれば常に周りに気配りし、素直で、嘘をつかず、真面目で、控えめで和を貴ぶ世界にもまれな素晴らしい民族ということになる。私は日本人の考え方方が間違っているとか良くないと言っているわけではない。自分たちの良いところをしっかりと認識し、他の国々の人達とは考え方方が違うという事を理解して欲しいのである。

繰り返しになるが、日本人は概して海外の人も日本人が考えるようと考えると思いがちである。日本人の考え方こそが世界で特異であることを理解したうえで、海外の人とつき合って欲しいと願う次第である。最後にある外国人が日本を観光して一番の魅力は日本人だと褒めてくれたことをつけ加えておく。